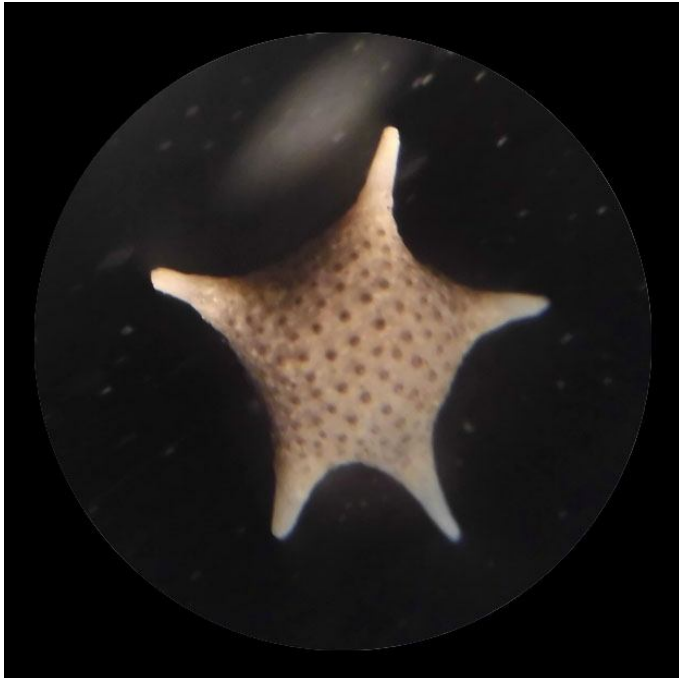


「化石の卒業制作 (3)」

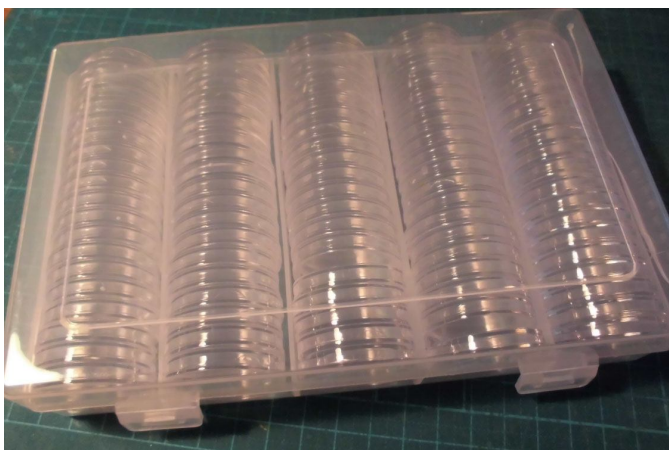
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

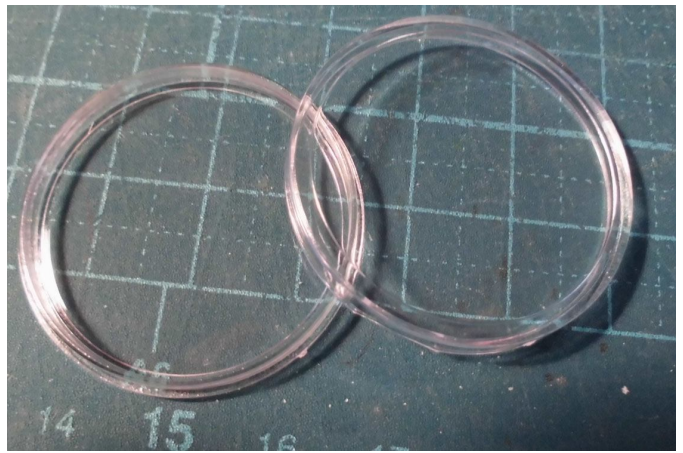
田中 千尋 Chihiro Tanaka



「星砂」のもう一つの型がこの「バキュロジプシナ」*Baculogypsina* である。「これぞ星砂!」という形をしている。和名もズバリ「ホシズナ」という。これも顕微鏡で子どもたちに観察させてみた。「星の形だ、星!」「ヒトデみたいな形」「何これ?おとととじゃん!」と、これまた大興奮の様子だった。



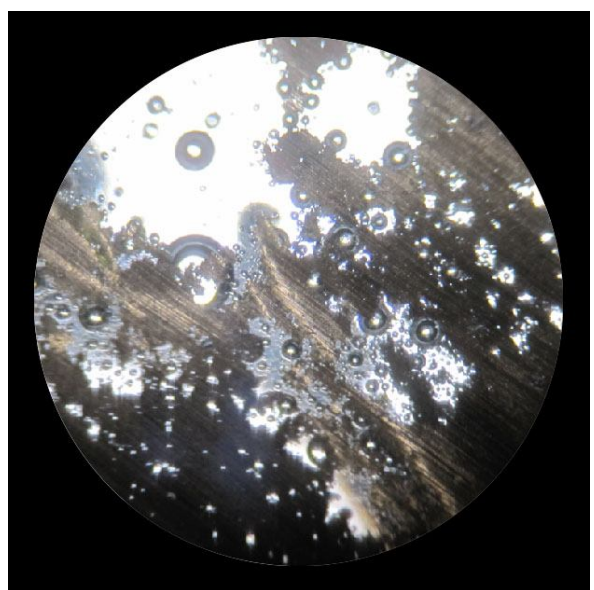
星砂は粒が小さいので、何かの容器か袋に入れてから、ボードに貼る必要がある。ポリ袋で試したが、星砂の場合見栄えが悪い。いろいろ考えた結果、このような透明プラスチック製ケースを購入することにした。100 個セットで、1200 円程度だった。



この透明ケースは、もともとコイン収集家を使うもので、500 円玉程度の大きさのコインを入れて、整理・保管するのに使うものだ。



このケースは、理科の観察実験のさまざまな場面で活躍する。例えば、アルミ箔の小片と水酸化ナトリウム水溶液を入れて蓋をし、顕微鏡で観察する実験だ。



この方法で、アルミニウムがアルカリに溶かされて、水素の泡を出しながら金属が消えてゆく一瞬を容易に観察できる。他にも小さな虫の観察にも適している。